

12 月ホームルーム

『裁判所一般職・労働基準監督官 A の試験情報』

裁判所一般職

1. 試験の流れ

申し込みから最終合格までの流れ

2022 年	日程	備考
申込み期間	4/1（金）～4/11（月）	インターネット申込（2月上旬に受験案内公表）
1 次試験日	5/7（土）	08:50 着席（09:10 試験開始、18:05 終了）
1 次合格発表	5/26（木）	AM09:00 発表：HP 上に掲示
面接カード提出	6/2（木）必着	2 次試験で使用する面接カードおよび希望勤務地等調査票を事前提出
2 次試験日	6/6（月）～7/4（月）	受験票で指定された 1 日に個別面接
最終合格発表	7/29（金）	AM09:00 発表：HP 上に掲示
採用	4/1	高等裁判所（8 か所）の管轄区域内の裁判所に採用

※ 受験資格 平成 4 年 4 月 2 日から平成 13 年 4 月 1 日までに生まれた人

※ 総合職試験（裁判所事務官）の特例希望の受験者の取扱い

受験の申込みに際して、特例を希望して、総合職試験（裁判所事務官）の各試験種目を有効に受験すると、同試験に加え、一般職試験（裁判所事務官、大卒程度区分）の受験者としても合否判定を受けることができます。具体的には、総合職試験（裁判所事務官）の第 1 次試験において不合格となった場合には一般職試験（裁判所事務官、大卒程度区分）の第 1 次試験の、総合職試験の第 2 次試験又は第 3 次試験において不合格となった場合は一般職試験（裁判所事務官、大卒程度区分）の第 2 次試験の、それぞれ有効受験者として扱われ、改めて一般職試験（裁判所事務官、大卒程度区分）の受験者としての合否判定を受けることができます。また、総合職試験（裁判所事務官）の第 3 次試験に合格した場合にも、一般職試験（裁判所事務官、大卒程度区分）の第 2 次試験の有効受験者として扱われ、一般職試験（裁判所事務官、大卒程度区分）の合否判定を受けることができます。

【試験地について】

高等裁判所	勤務地	人物試験（試験地）
札幌高等裁判所	北海道	札幌市、函館市、釧路市
仙台高等裁判所	宮城県、福島県、山形県、岩手県、秋田県、青森県	仙台市、福島市、盛岡市、秋田市、青森市
東京高等裁判所	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県、静岡県、山梨県、長野県、新潟県	東京都、横浜市、さいたま市、千葉市、水戸市、宇都宮市、前橋市、静岡市、甲府市、長野市、新潟市
名古屋高等裁判所	愛知県、三重県、岐阜県、福井県、石川県、富山県	名古屋市、津市、金沢市、富山市
大阪高等裁判所	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県	大阪市、京都市、神戸市
広島高等裁判所	広島県、山口県、岡山県、鳥取県、島根県	広島市、山口市、岡山市、鳥取市、松江市
高松高等裁判所	香川県、徳島県、高知県、愛媛県	高松市、高知市、松山市
福岡高等裁判所	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、鹿児島県、宮崎県、沖縄県	福岡市、長崎市、大分市、熊本市、鹿児島市、宮崎市、那覇市

➡ 第1次試験及び第2次試験の筆記試験の試験地は、希望する勤務地にかかわらず、全国41都市の試験地から受験に便利な試験地を選択することができます。ただし、第2次試験の筆記試験の試験地は、第1次試験の試験地と同じであり、異なる試験地を選択することはできません。第2次試験の人物試験は、希望する勤務地を管轄する高等裁判所の管轄区域内の試験地から選択することになります。ただし、第1次試験の試験地が、希望する勤務地を管轄する高等裁判所の管轄区域内にある場合は、同試験地と異なる試験地を選択することはできません。

2. 試験形式

1 次試験

試験科目	解答時間	備考
基礎能力試験（多肢選択式）	3 時間	40 題必須解答
専門試験（多肢選択式）	1 時間 30 分	40 題中 30 題解答
論文試験（小論文）	1 時間	1 題必須解答
専門試験（記述式）	1 時間	1 題必須解答

基礎能力試験	
現代文	5
英文	5
判断推理	7
空間把握	3
数的推理	6
資料解釈	1
政治	2
経済	2
法律	1
思想	1
日本史	1
世界史	1
地理	1
思想	1
物理	1
化学	1
生物	1
地学	2
出題数/解答数	40/40
解答時間	180 分

専門試験	
憲法	7
民法	13
小計（必須）	20
刑法	10
経済理論	10
小計（解答/出題）	10/20
解答/出題	30/40
解答時間	90 分

➡ 基礎能力試験は、40 題必須解答であり、一般知能分野の出題が 27 問と出題数の約 70% を占めています。他の試験に比べ、試験時間が長い（180 分）特徴があります。

➡ 専門試験は、40 題中 30 題の選択解答制となっています。必須科目に加え、刑法または経済理論の 1 科目（10 題）を当日選択する仕組み となっています。

➡ 論文・専門記述試験は課題式で、1 題を必須解答する形式です（字数の制限はありません）。論文は行政課題とは異なり、抽象的な課題が出されることもあります（詳しくは論文テキスト参照）。答案用紙はマス目横書きで、最大 1792 字まで書けるようになっています。ちなみに、論文・専門記述試験は黒の ペン又はボールペン で記入する形式のため注意が必要です。

2 次試験

➡人物試験は個別面接形式で行われ、面接官は 3 人で構成されています。1 次試験合格後に提出する面接カードを使い、30 分程度の面接が行われます。面接カードは 1 次試験合格発表日の 1 週間後までに提出することになりますので、事前に準備しておく必要があります。基本的には面接カードに記載した内容を中心に質疑が行われますが、希望勤務地、交通違反歴、健康状態に関しては、多くの方が共通して問われる定番質問となっています。

配点比率・基準点

国家一般（行政）	試験種目	配点比率	基準点	
第 1 次試験	基礎能力試験	2/10	15	（40 問中 15 問以上の正答が必要）
	専門試験（択一）	2/10	12	（30 問中 12 問以上の正答が必要）
	論文試験	1/10	試験種目ごとに満点の 20%～50%を基本に定める	
	専門試験（記述）	1/10		
第 2 次試験	個別面接	4/10	C	（A～D の 4 段階中 C 以上の評価が必要）

➡1 次試験の可否は「基礎能力試験＋専門試験（択一）」だけで決定されます。ただし、基礎能力試験、専門試験それぞれにおいて、最低限必要な得点（基準点）が設定されていることに注意が必要です。択一試験では基準点（基礎：37.5%, 専門：40%）に達しない試験種目が一つでも存在する場合、他の試験種目の成績に関わらず不合格となってしまいます。また、2 次試験の採点対象である論文試験および専門記述試験を有効に受験していない場合も、択一試験が採点の対象にならないため不合格となってしまいます。ちなみに、論文試験および専門記述試験の基準点は具体的な数値は公表されていないものの、満点の 20～50%を基本に個別に定めることになっているため注意が必要です。

➡2 次試験で行われる個別面接では、受験者を A～D の 4 段階で評価しますが、D 評価になった者は、基準点を満たさない者として、不合格になります。A～C 評価である者に対してのみ得点化します。

➡最終合格者については、1 次試験と 2 次試験の得点（標準点）を合計して決定されます。

採点方法（択一・論文・面接）

➡受験者の筆記試験の得点は、各試験種目の素点※ではなく、試験種目ごとに平均点、標準偏差を用いて下記の方法で算出した「標準点」を使っています。下記のカッコ内の式は、いわゆる偏差値になりますので、標準点とは、【配点比率（ウェイト）×偏差値】ということになります。なお、標準点は小数点以下を切り捨てて表記されることが一般的です。標準点の合計は概ね 0～500 点の範囲になり、全ての試験種目で平均的な成績であれば、標準点の合計はおよそ 250 点になります。

$$\text{標準点} = \text{配点比率（ウェイト）} \times \left(10 \times \frac{\text{素点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50 \right)$$

素点※：択一式試験の場合は正解数、記述式試験の場合は採点者による評点

試験種目	基礎能力	専門試験	論文	専門記述	面接
ウェイト	1	1	0.5	0.5	2

➡人物試験においては、各受験者について A～E の 5 段階で評価し、この評価結果が正規分布するものとみなして、各段階の標準点を算出しています。

3. 受験状況

倍率（過去3年）

裁判所一般職（事務官）		採用予定	1次試験		1次合格者数	2次受験者数	最終合格者数	受験倍率※		
高裁	年度		申込者数	受験者数				1次試験	2次試験	総合
札幌高裁	2022	15	401	329	250	237	83	1.3	2.9	4.0
	2021	8	350	267	144	134	52	1.9	2.6	5.1
	2020	15	435	51	42	46	18	1.2	2.6	2.8
仙台高裁	2022	25	646	496	321	281	148	1.5	1.9	3.4
	2021	30	579	432	278	263	124	1.6	2.1	3.5
	2020	15	767	99	74	65	41	1.3	1.6	2.4
東京高裁	2022	155	4,299	3,067	1,924	1,849	628	1.6	2.9	4.9
	2021	175	3,870	2,847	1,255	1,245	351	2.3	3.5	8.1
	2020	200	4,870	1,010	794	740	514	1.3	1.4	2.0
名古屋高裁	2022	30	1,202	982	426	391	149	2.3	2.6	6.6
	2021	25	1,136	915	316	284	100	2.9	2.8	9.2
	2020	35	1,460	197	165	142	88	1.2	1.6	2.2
大阪高裁	2022	65	2,017	1,606	651	625	231	2.5	2.7	7.0
	2021	70	1,766	1,340	553	536	200	2.4	2.7	6.7
	2020	55	2,007	358	283	276	171	1.3	1.6	2.1
広島高裁	2022	30	765	621	363	318	136	1.7	2.3	4.6
	2021	25	668	531	219	214	67	2.4	3.2	7.9
	2020	20	752	90	60	57	38	1.5	1.5	2.4
高松高裁	2022	20	524	411	211	198	80	1.9	2.5	5.1
	2021	20	500	388	138	119	69	2.8	1.7	5.6
	2020	10	593	70	48	37	15	1.5	2.5	4.7
福岡高裁	2022	50	1,600	1,261	425	381	133	3.0	2.9	9.5
	2021	40	1,406	1,082	371	324	117	2.9	2.8	9.2
	2020	40	1,900	260	172	156	85	1.5	1.8	3.1

※受験倍率（1次試験）＝（1次試験受験者数）÷（1次合格者数）

※受験倍率（2次試験）＝（*2次受験者数）÷（最終合格者数） *2次受験者数は総合職の特例希望者を含みます

※受験倍率（総合）＝（1次試験受験者数）÷（最終合格者数）

4. 試験分析

平均点

平均点・標準偏差	2022年	2021年	2020年
基礎能力試験	22.78	22.13	21.52
（標準偏差）	4.96	4.91	5.57
専門試験	17.05	17.66	18.50
（標準偏差）	4.88	5.50	5.26

➡上表は実施結果とともに公表されている平均点・標準偏差について直近3年分をまとめたものです。確認すると、基礎能力試験は例年21～22点付近で正答率55%程度となっています。専門試験については、例年17～18点付近で正答率56～60%と、基礎能力試験よりも若干高い傾向にあることがわかります。ちなみに、標準偏差とは平均値に対する「ばらつきの度合」を示すものです。その数値が大きければ大きいほど、できる人とできない人との点差が開きやすい試験だといえます。

データリサーチ

➡TAC では問題の持ち帰りが可能な主要試験種においてデータリサーチを行っています。本試験を受験した方から寄せられた情報をもとに各試験のボーダーライン予想などを提供しています。他にも参加特典がありますので、積極的に利用してください。

特に TAC で実施している裁判所一般職のデータリサーチは、他の予備校と比較しても最大の規模で、毎年 2000 人前後の参加があります。ただ、実際の全受験者数の 20～25% 前後のデータであることや、受験して手ごたえを感じた方の参加率が比較的高いこともあるため、本試験よりも平均点が若干高くなる傾向があります。

基礎能力試験・分野別平均点 ～データリサーチより～

基礎能力試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数	例年の正答率
文章理解	7.1	7.5	6.3	10	65～75%の正答率
数的処理	9.0	10.4	11.0	17	55～65%の正答率
自然科学	2.5	1.9	2.3	4	45～60%の正答率
人文科学	2.0	2.0	1.6	4	40～50%の正答率
社会科学	4.2	3.1	2.9	5	60～85%の正答率
全体（平均点）	24.9	24.6	24.3	40	60%前後の正答率

➡各分野の実際の平均点はデータリサーチよりも低くなりますので、上記の数値を超えていなくても十分に合格することは可能ですが、学習を進めていく上では一つの目安にすることができでしょう。ご自身の得意不得意などを加味した上で、分野別に自分なりの目標値を設けて学習を進めていきましょう。

専門試験・科目別選択率 ～データリサーチより～

科目別選択率	2022 年	2021 年	2020 年
刑法	25%	32%	63%
経済理論	75%	68%	37%

➡上表はデータリサーチにおける専門試験科目の選択率を示しています。2020 年はコロナの影響で、試験日が国家一般職と同日であった影響により、刑法科目の受験者が占める割合が高くなっていましたが、2021 年以降は例年どおりの傾向（経済理論の選択率が刑法よりも高い）に戻りました。

専門試験・科目別平均点 ～データリサーチより～

専門試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数
憲法・民法	13.2	14.4	14.4	20
刑法	5.9	4.9	7.6	10
経済理論	6.6	6.7	7.0	10
全体（平均点）	19.7	20.6	21.7	30

➡必須解答である憲法・民法は例年 65～70% 前後の正答率で安定して推移しています。一方、選択科目では、経済理論は安定していますが、刑法の平均点が 2020 年と 2021 年では大きく変化しています。これは難易度の変動も考えられますが、2020 年は国家一般職と同日になった影響で、裁判所一般職を本命にしている受験者（法学部出身者）の割合が高くなったためだと考えられます。この年の刑法科目の選択比率が逆転したこともそのことを示唆しているといえます。

ボーダーライン

➡TAC で実施している合否調査アンケートで寄せられた情報をもとに、東京高裁・名古屋高裁・大阪高裁の得点状況と順位や結果を一部抜粋してまとめました。なお、札幌高裁・仙台高裁・広島高裁・高松高裁・福岡高裁に関してはデータ量が少なく正確なボーダーラインを特定できないため、参考として判明している1次合格最低点のみまとめています。

2022 年（東京高裁）（1 次合格者数 1924 名 ， 最終合格者数 628 名）

受験者	結果	順位	基礎	専門	合計	受験者	結果	順位	基礎	専門	合計
No.1	◎	3	30	29	59	No.46	◎	285	31	22	53
No.2	◎	5	31	27	58	No.47	◎	292	24	26	50
No.3	◎	6	29	26	55	No.48	◎	292	24	26	50
No.4	◎	7	36	21	57	No.49	◎	298	29	22	51
No.5	◎	19	34	22	56	No.50	◎	307	25	24	49
No.6	◎	21	35	23	58	No.51	◎	322	28	18	46
No.7	◎	24	26	25	51	No.52	◎	334	28	23	51
No.8	◎	26	31	21	52	No.53	◎	361	26	21	47
No.9	◎	31	30	24	54	No.54	◎	362	22	20	42
No.10	◎	34	32	25	57	No.55	◎	368	24	22	46
No.11	◎	44	35	23	58	No.56	◎	398	27	24	51
No.12	◎	53	29	22	51	No.57	◎	407	34	20	54
No.13	◎	65	26	22	48	No.58	◎	408	29	22	51
No.14	◎	68	26	24	50	No.59	◎	433	33	20	53
No.15	◎	69	30	21	51	No.60	◎	438	27	22	49
No.16	◎	73	33	23	56	No.61	◎	455	30	18	48
No.17	◎	76	28	23	51	No.62	◎	463	27	22	49
No.18	◎	89	25	21	46	No.63	◎	465	27	24	51
No.19	◎	92	28	21	49	No.64	◎	476	22	22	44
No.20	◎	97	28	28	56	No.65	◎	481	26	24	50
No.21	◎	102	28	26	54	No.66	◎	481	26	24	50
No.22	◎	107	32	22	54	No.67	◎	485	23	23	46
No.23	◎	111	28	27	55	No.68	◎	490	22	26	48
No.24	◎	116	24	24	48	No.69	◎	496	26	23	49
No.25	◎	128	27	23	50	No.70	◎	514	26	24	50
No.26	◎	134	30	20	50	No.71	◎	515	22	22	44
No.27	◎	144	30	27	57	No.72	◎	516	25	22	47
No.28	◎	150	33	25	58	No.73	◎	516	25	22	47
No.29	◎	152	27	22	49	No.74	◎	517	26	25	51
No.30	◎	158	24	21	45	No.75	◎	542	29	23	52
No.31	◎	161	33	22	55	No.76	◎	548	27	22	49
No.32	◎	165	23	23	46	No.77	◎	558	28	23	51
No.33	◎	169	30	27	57	No.78	◎	563	20	26	46
No.34	◎	175	29	24	53	No.79	◎	567	22	23	45
No.35	◎	179	26	25	51	No.80	◎	567	20	25	45
No.36	◎	181	34	24	58	No.81	◎	571	29	19	48
No.37	◎	195	31	25	56	No.82	◎	574	26	16	42
No.38	◎	196	30	21	51	No.83	◎	583	27	20	47
No.39	◎	200	25	20	45	No.84	◎	584	23	20	43
No.40	◎	200	30	20	50	No.85	◎	592	30	22	52
No.41	◎	201	31	17	48	No.86	◎	604	29	22	51
No.42	◎	218	28	23	51	No.87	◎	604	29	22	51
No.43	◎	260	25	18	43	No.88	◎	626	21	22	43
No.44	◎	267	25	22	47	No.89	○	994	24	22	46
No.45	◎	278	24	25	49	No.90	○	1049	26	15	41

※最終合格⇒◎ 1 次のみ合格⇒○ 1 次不合格⇒×

➡判明している合格者の最低得点は1次合格が41点、最終合格が42点でした。したがって、東京高裁の1次合格ボーダーラインは42点（60%）前後であったと推測されます。

2022 年（大阪高裁）

（1 次合格者数 651 名 ， 最終合格者数 231 名）

受験者	結果	順位	基礎	専門	合計
No.1	◎	2	35	22	57
No.2	◎	6	30	22	52
No.3	◎	10	29	23	52
No.4	◎	17	33	26	59
No.5	◎	21	27	24	51
No.6	◎	24	23	28	51
No.7	◎	43	29	29	58
No.8	◎	47	29	22	51
No.9	◎	59	28	18	46
No.10	◎	62	28	24	52
No.11	◎	89	31	25	56
No.12	◎	90	28	22	50
No.13	◎	103	23	29	52
No.14	◎	110	25	26	51
No.15	◎	115	24	26	50
No.16	◎	122	29	26	55
No.17	◎	127	32	21	53
No.18	◎	134	32	21	53
No.19	◎	138	24	24	48
No.20	◎	150	24	25	49
No.21	◎	161	24	23	47
No.22	◎	198	22	24	46
No.23	◎	210	32	24	56
No.24	◎	230	28	22	50
No.25	○	不明	23	24	47
No.26	○	不明	30	23	53
No.27	○	不明	33	23	56
No.28	○	不明	31	23	54
No.29	○	不明	32	26	58
No.30	×	不明	19	21	40
No.31	×	不明	22	20	42
No.32	×	不明	25	14	39

※最終合格⇒◎ 1 次のみ合格⇒○ 1 次不合格⇒×

大阪高裁

➡判明している合格者の最低得点は 1 次合格が 47 点、最終合格が 46 点でした。また、42 点で 1 次不合格者がいることから、大阪高裁の 1 次合格ボーダーラインは 43 点～46 点（65%前後）の範囲であったと推測されます。

名古屋高裁

➡判明している合格者の最低得点は 1 次合格が 44 点、最終合格が 46 点でした。また、41 点で 1 次不合格者がいることから、名古屋高裁の 1 次合格ボーダーラインは 42 点～44 点（62%前後）の範囲であったと推測されます。

2022 年（名古屋高裁）

（1 次合格者数 426 名 ， 最終合格者数 149 名）

受験者	結果	順位	基礎	専門	合計
No.1	◎	1	33	29	62
No.2	◎	2	32	27	59
No.3	◎	3	29	27	56
No.4	◎	4	33	28	61
No.5	◎	6	29	25	54
No.6	◎	27	28	27	55
No.7	◎	35	31	28	59
No.8	◎	38	32	26	58
No.9	◎	49	34	21	55
No.10	◎	52	28	24	52
No.11	◎	55	31	19	50
No.12	◎	67	27	19	46
No.13	◎	103	27	25	52
No.14	◎	108	30	25	55
No.15	◎	117	31	23	54
No.16	◎	121	29	19	48
No.17	◎	127	31	21	52
No.18	◎	137	28	23	51
No.19	○	不明	23	21	44
No.20	×	不明	23	18	41

※最終合格⇒◎ 1 次のみ合格⇒○ 1 次不合格⇒×

2021 年（東京高裁）（1 次合格者数 1255 名 ， 最終合格者数 351 名）

受験者	結果	順位	基礎	専門	合計	受験者	結果	順位	基礎	専門	合計
No.1	◎	2	33	27	60	No.31	◎	158	31	24	55
No.2	◎	6	30	27	57	No.32	◎	173	31	22	53
No.3	◎	13	23	36	59	No.33	◎	175	28	18	46
No.4	◎	14	33	28	61	No.34	◎	184	29	21	50
No.5	◎	15	32	25	57	No.35	◎	188	31	21	52
No.6	◎	18	30	24	54	No.36	◎	192	30	21	51
No.7	◎	20	36	27	63	No.37	◎	197	20	22	42
No.8	◎	25	32	30	62	No.38	◎	204	31	20	51
No.9	◎	31	30	24	54	No.39	◎	213	32	28	60
No.10	◎	36	30	22	52	No.40	◎	230	31	22	53
No.11	◎	38	29	23	52	No.41	◎	254	25	19	44
No.12	◎	53	28	23	51	No.42	◎	256	27	23	50
No.13	◎	55	27	24	51	No.43	◎	263	26	17	43
No.14	◎	69	23	24	47	No.44	◎	267	29	20	49
No.15	◎	71	31	23	54	No.45	◎	271	28	26	54
No.16	◎	89	25	22	47	No.46	◎	274	28	23	51
No.17	◎	93	33	18	51	No.47	◎	290	30	22	52
No.18	◎	96	29	22	51	No.48	◎	294	24	19	43
No.19	◎	103	30	22	52	No.49	◎	301	24	24	48
No.20	◎	111	25	27	52	No.50	◎	306	32	21	53
No.21	◎	112	31	26	57	No.51	◎	320	29	25	54
No.22	◎	131	30	25	55	No.52	◎	324	28	24	52
No.23	◎	136	29	21	50	No.53	◎	325	27	16	43
No.24	◎	137	28	22	50	No.54	◎	326	29	23	52
No.25	◎	140	28	24	52	No.55	◎	335	28	25	53
No.26	◎	142	28	21	49	No.56	◎	340	23	19	42
No.27	◎	144	20	26	46	No.57	◎	342	29	24	53
No.28	◎	148	30	20	50	No.58	○	494	26	20	46
No.29	◎	150	29	25	54	No.59	×	不明	20	21	41
No.30	◎	152	30	26	56	No.60	×	不明	21	19	40

※最終合格⇒◎ 1 次のみ合格⇒○ 1 次不合格⇒×

➡判明している合格者の最低得点は最終合格が 42 点でした。また、41 点で 1 次不合格者がいることから、東京高裁の 1 次合格ボーダーラインは 42 点（60%）前後であったと推測されます。

2021 年（大阪高裁）（1 次合格者数 553 名 ， 最終合格者数 200 名）

受験者	結果	順位	基礎	専門	合計	受験者	結果	順位	基礎	専門	合計
No.1	◎	2	30	23	53	No.16	◎	85	30	24	54
No.2	◎	4	30	28	58	No.17	◎	85	30	24	54
No.3	◎	5	31	26	57	No.18	◎	86	33	26	59
No.4	◎	23	28	28	56	No.19	◎	88	33	25	58
No.5	◎	25	28	26	54	No.20	◎	91	27	21	48
No.6	◎	27	25	25	50	No.21	◎	126	29	17	46
No.7	◎	30	30	28	58	No.22	◎	133	27	28	55
No.8	◎	30	30	28	58	No.23	◎	143	31	25	56
No.9	◎	55	30	25	55	No.24	◎	153	27	23	50
No.10	◎	57	28	28	56	No.25	◎	154	25	24	49
No.11	◎	62	23	29	52	No.26	◎	166	26	21	47
No.12	◎	65	29	21	50	No.27	◎	171	26	23	49
No.13	◎	68	24	21	45	No.28	◎	193	24	23	47
No.14	◎	72	27	26	53	No.29	○	不明	24	21	45
No.15	◎	74	26	24	50	No.30	○	不明	20	24	44

※最終合格⇒◎ 1 次のみ合格⇒○ 1 次不合格⇒×

➡判明している合格者の最低得点は 1 次合格が 44 点、最終合格が 45 点でした。したがって、大阪高裁の 1 次合格ボーダーラインは 44 点（62%）前後であったと推測されます。

2021 年（名古屋高裁）（1 次合格者数 316 名 ， 最終合格者数 100 名）

受験者	結果	順位	基礎	専門	合計	受験者	結果	順位	基礎	専門	合計
No.1	◎	1	30	25	55	No.13	○	不明	26	25	51
No.2	◎	9	27	27	54	No.14	○	不明	29	19	48
No.3	◎	23	26	25	51	No.15	○	不明	27	22	49
No.4	◎	35	27	21	48	No.16	○	不明	28	21	49
No.5	◎	42	32	25	57	No.17	○	不明	25	23	48
No.6	◎	56	29	24	53	No.18	○	不明	23	28	51
No.7	◎	66	31	22	53	No.19	○	不明	28	24	52
No.8	◎	69	28	24	52	No.20	○	不明	25	28	53
No.9	◎	78	26	23	49	No.21	○	不明	24	28	52
No.10	◎	83	29	22	51	No.22	○	不明	29	23	52
No.11	○	不明	28	24	52	No.23	×	不明	26	18	44
No.12	○	不明	21	28	49	No.24	×	不明	23	23	46

※最終合格⇒◎ 1 次のみ合格⇒○ 1 次不合格⇒×

名古屋高裁

➡判明している合格者の最低得点は 1 次合格が 48 点、最終合格も 48 点でした。また、46 点で 1 次不合格者がいることから、名古屋高裁の 1 次合格ボーダーラインは 47 点～48 点（68%前後）の範囲であったと推測されます。

【参考】1 次合格最低点（判明分）

高等裁判所	札幌	仙台	広島	高松	福岡
2022 年	42	41	42	44	45
2021 年	46	35	45	44	42

➡上表の数値はあくまで調査において判明したものであり、それよりも低い得点で合格できた可能性が否定できません。データ量が少ないため、正確なボーダーラインを特定することはできませんが、東京・名古屋・大阪高裁などと比較しても大きくは変わらないと考えられます。択一試験では一般的に 6 割前後の得点が 1 次合格の目安となっていますが、上記の各高裁でも同様に考え、60～65%の得点率を目標にして学習を進めていきましょう。

出題傾向・正答率

2022 年 基礎能力試験				2022 年 専門択一試験			
No	科目	テーマ	正答率	No	科目	テーマ	正答率
1	現代文	内容合致	84%	1	憲法	法の下の平等	97%
2	現代文	内容合致	74%	2	憲法	思想・良心の自由及び信教の自由	90%
3	現代文	内容合致	92%	3	憲法	居住・移転の自由、国籍離脱の自由等	84%
4	現代文	空欄補充	86%	4	憲法	職業選択の自由	86%
5	現代文	文章整序	71%	5	憲法	国会	90%
6	英文	内容合致	78%	6	憲法	内閣	84%
7	英文	内容合致	76%	7	憲法	裁判所	95%
8	英文	内容合致	48%	8	民法	制限行為能力者	85%
9	英文	文章整序	45%	9	民法	条件及び期限	64%
10	英文	空欄補充	61%	10	民法	取得時効	70%
11	判断推理	命題	83%	11	民法	時効	65%
12	判断推理	操作手順	17%	12	民法	物権変動	48%
13	判断推理	トーナメント	86%	13	民法	所有権	45%
14	判断推理	順序	88%	14	民法	相殺	30%
15	数的推理	暦の計算	35%	15	民法	連帯債権・連帯債務	59%
16	数的推理	場合の数	22%	16	民法	債権譲渡	20%
17	数的推理	場合の数	22%	17	民法	債務不履行	72%
18	空間把握	軌跡	19%	18	民法	債務不履行を理由とする契約解除	74%
19	空間把握	サイコロ	62%	19	民法	売買	25%
20	空間把握	立体の断面	33%	20	民法	不法行為による損害賠償債権	49%
21	数的推理	整数	62%	21	刑法	被害者の承諾	92%
22	数的推理	利益算	86%	22	刑法	正当防衛	32%
23	数的推理	速さ	54%	23	刑法	教唆犯及び幫助犯	65%
24	数的推理	図形の計量	40%	24	刑法	責任能力	47%
25	数的推理	確率	53%	25	刑法	錯誤	86%
26	数的推理	場合の数	68%	26	刑法	横領罪	50%
27	資料解釈	実数	81%	27	刑法	無銭飲食	49%
28	政治	近代民主政治と基本的人権の保障	87%	28	刑法	強盗の罪	44%
29	政治	選挙制度	88%	29	刑法	人の身体に対する罪	77%
30	経済	近年の我が国の財政状況	91%	30	刑法	横領罪	54%
31	経済	国際経済	84%	31	経済理論	ラスパイレス指数	64%
32	法律	日本の司法制度	69%	32	経済理論	閉鎖経済下 45 度線分析	80%
33	日本史	安土桃山時代	33%	33	経済理論	ケインズの流動性選好説	58%
34	世界史	第二次世界大戦後の世界	31%	34	経済理論	IS-LM 分析	91%
35	地理	オーストラリア	69%	35	経済理論	ハロッド=ドーマー・モデル	13%
36	思想	古代西洋思想	70%	36	経済理論	需要の価格弾力性	70%
37	物理	音	54%	37	経済理論	損益分岐点と操業停止点	57%
38	化学	化学変化と物理変化	92%	38	経済理論	ゲーム理論	94%
39	生物	免疫	83%	39	経済理論	課税の効果	70%
40	地学	海洋	28%	40	経済理論	外部不経済	68%

※正答率は小数点第 1 位を四捨五入しています。(正答率 60%以上は網掛けで示しています)

2021 年 基礎能力試験				2021 年 専門択一試験			
No	科目	テーマ	正答率	No	科目	テーマ	正答率
1	現代文	内容合致	84%	1	憲法	新しい人権	94%
2	現代文	内容合致	90%	2	憲法	法の下の平等	83%
3	現代文	内容合致	98%	3	憲法	表現の自由	93%
4	現代文	空欄補充	27%	4	憲法	集会結社の自由	70%
5	現代文	文章整序	62%	5	憲法	財産権	81%
6	英文	内容合致	86%	6	憲法	国会	89%
7	英文	内容合致（誤植アリ）	100%	7	憲法	裁判の公開	52%
8	英文	内容合致	63%	8	民法	代理	82%
9	英文	空欄補充	85%	9	民法	取得時効	69%
10	英文	文章整序	51%	10	民法	不動産物権変動	84%
11	判断推理	命題	64%	11	民法	即時取得	69%
12	判断推理	リーグ戦	92%	12	民法	保証	80%
13	判断推理	操作手順	47%	13	民法	債権総合	12%
14	判断推理	位置(あみだくじの配置)	75%	14	民法	債権者代位権及び詐害行為取消権	81%
15	判断推理	数量順序	83%	15	民法	弁済	85%
16	判断推理	順位順序	78%	16	民法	同時履行の抗弁	67%
17	判断推理	数量推理	80%	17	民法	売買契約	54%
18	空間把握	投影	12%	18	民法	消費貸借契約	41%
19	空間把握	立体構成	19%	19	民法	賃貸借契約	88%
20	空間把握	円盤の回転	42%	20	民法	不法行為	79%
21	数的推理	数列法則	62%	21	刑法	違法性阻却事由	56%
22	数的推理	仕事算	77%	22	刑法	不真正不作為犯	60%
23	数的推理	比	66%	23	刑法	事実の錯誤	35%
24	数的推理	濃度	66%	24	刑法	責任能力	24%
25	数的推理	図形の計量(角の二等分線)	46%	25	刑法	共犯	36%
26	数的推理	確率	46%	26	刑法	正当防衛	73%
27	資料解釈	実数	80%	27	刑法	傷害罪	44%
28	政治	大統領が存在する国	80%	28	刑法	傷害致死罪	60%
29	経済	日本の金融政策	51%	29	刑法	窃盗罪	49%
30	法律	法が存在形式	72%	30	刑法	事後強盗罪	51%
31	日本史	飛鳥・奈良時代の出来事	43%	31	経済理論	国民経済計算	70%
32	世界史	18 世紀のアメリカ	30%	32	経済理論	GDP ギャップ	91%
33	地理	世界の農牧業	61%	33	経済理論	AD-AS 分析	27%
34	思想	実存主義	65%	34	経済理論	新古典派成長論	37%
35	政治	日本国憲法における平和主義	63%	35	経済理論	マンデル＝フレミング・モデル	75%
36	経済	世界経済の動向	38%	36	経済理論	二重価格制度	76%
37	物理	力	71%	37	経済理論	需要の価格弾力性	35%
38	化学	酸化還元	45%	38	経済理論	独占均衡(余剰分析)	77%
39	生物	植物	34%	39	経済理論	ゲーム理論	89%
40	地学	地層	38%	40	経済理論	最適消費点	95%

※正答率は小数点第 1 位を四捨五入しています。(正答率 60%以上は網掛けで示しています)

※基礎能力試験 No.7 は問題の不備により全員正解

2020 年 基礎能力試験				2020 年 専門択一試験			
No	科目	テーマ	正答率	No	科目	テーマ	正答率
1	現代文	内容合致	79%	1	憲法	人権の享有主体	95%
2	現代文	内容合致	88%	2	憲法	結社の自由	93%
3	現代文	内容合致	57%	3	憲法	法の下での平等	73%
4	現代文	空欄補充	40%	4	憲法	通信の秘密	16%
5	現代文	文章整序	85%	5	憲法	学問の自由	81%
6	英文	内容合致	76%	6	憲法	衆議院の優越	97%
7	英文	内容合致	36%	7	憲法	裁判所	32%
8	英文	内容合致	75%	8	民法	意思表示	64%
9	英文	文章整序	44%	9	民法	代理	83%
10	英文	空欄補充	48%	10	民法	消滅時効の援用	83%
11	判断推理	命題	73%	11	民法	不動産物権変動	80%
12	判断推理	集合	72%	12	民法	共有	82%
13	判断推理	嘘つき	72%	13	民法	債権の消滅事由	81%
14	判断推理	順序	93%	14	民法	保証	77%
15	判断推理	リーグ戦	71%	15	民法	弁済	47%
16	判断推理	操作手順	32%	16	民法	手付	86%
17	空間把握	平面構成	13%	17	民法	消費貸借	62%
18	空間把握	軌跡	20%	18	民法	委任	64%
19	空間把握	サイコロ	63%	19	民法	不当利得	52%
20	空間把握	投影	67%	20	民法	不法行為	96%
21	数的推理	割合	68%	21	刑法	罪刑法定主義	77%
22	数的推理	剰余	85%	22	刑法	未遂	55%
23	数的推理	確率	80%	23	刑法	被害者の承諾	93%
24	数的推理	場合の数	78%	24	刑法	正当防衛	86%
25	数的推理	図形の計量	58%	25	刑法	共犯	92%
26	数的推理	図形の計量	76%	26	刑法	窃盗	71%
27	資料解釈	構成比	84%	27	刑法	死者の占有	81%
28	法律	日本の三権の機構	87%	28	刑法	強盗致傷罪	72%
29	経済	経済思想	80%	29	刑法	詐欺罪	69%
30	法律	法の解釈	56%	30	刑法	財産罪総合	50%
31	日本史	平安時代の出来事	35%	31	経済理論	フィリップス曲線(計算)	40%
32	世界史	中国の歴史	28%	32	経済理論	マンデルのポリシーミックス(図解)	72%
33	地理	世界の気候	48%	33	経済理論	IS-LM 分析(計算)	91%
34	思想	近代の西欧思想	54%	34	経済理論	貨幣乗数式(計算)	81%
35	政治	国際平和	59%	35	経済理論	IS-LM 分析(計算)	90%
36	法律	労使関係と労働問題	37%	36	経済理論	効用最大化(計算)	91%
37	物理	落体運動	35%	37	経済理論	需要の価格弾力性(計算)	85%
38	化学	原子の構造とイオン	60%	38	経済理論	損益分岐価格(計算)	59%
39	生物	内分泌系	56%	39	経済理論	自由貿易均衡(輸出) (図解)	51%
40	地学	太陽系の惑星	76%	40	経済理論	独占市場に対する生産補助金政策(計算)	40%

※正答率は小数点第1位を四捨五入しています。(正答率 60%以上は網掛けで示しています)

5. 情報収集

裁判所一般職の情報収集

■最高裁判所ホームページ

<https://www.courts.go.jp/saiyo/index.html>

上記のほか、各種 SNS でも情報発信しています。

■TAC 公務員講座主催 官公庁・自治体講演会

https://www.tac-school.co.jp/kouza_komuin/komuin_setumeikai.html

➡採用試験制度の仕組み、職員の業務内容、若手職員に期待すること、入庁後のキャリアプランなど、採用試験のご担当者から直接ご説明いただきます（普段着で出席できます）。例年、秋以降から実施していきます、詳細は TAC WEB SCHOOL で案内が出ますのでご確認ください。

■復元シート（各校舎・TAC WEB SCHOOL で資料閲覧）

➡過年度の筆記試験や人物試験の復元シートなどが閲覧できます。校舎で閲覧する場合は受付で会員証を提示の上で申し出てください。TAC WEB SCHOOL で閲覧する場合は「学習フォロー」の中の「デジタル教材」をクリックして確認してください。

■直前期オプション講座（有料）：「裁判所一般職対策セミナー」

➡専門択一「憲法」「民法」「刑法」「経済理論」の過去問を中心に解説します。また、専門記述「憲法」と「論文」の出題傾向を分析した講義に加え、答案添削も承ります。

※裁判所一般職本科生の方は「試験種別対策」としてコースに含まれています。

■直前期オプション講座（有料）：「数的処理過去問特訓 裁判所一般職」

➡当講座専用の問題集「数的処理 過去 15 年問題集」を使い、本試験での時間配分を意識しながら過去問演習に取り組みます。演習の後は、ポイント解説講義で確認し、知識の定着を図ります。

6. 参考資料（面接カード）

面 接 カ ー ド

【機2】

令和 4 年 月 日提出

受験番号	(ふりがな) 氏 名		生年月日・年齢	
-			年 月 日生 (歳)	
裁判所職員を志望した 動機				
趣 味 ・ 特 技 (好きなスポーツなど)		これまで加入したク ラブ活動・サークル 活動等の集団活動		
長 所				
短 所				
あなたがこれまでに個人として力を入れて取り組んできた活動や経験 (具体的かつ簡潔に記載する)				
あなたがこれまでに目標達成に向けて周囲と協力して(チームで)取り組んだ活動や経験 (具体的かつ簡潔に記載する)				
自 己 P R				

※ この面接カードは、人物試験の参考となる資料です。

訂正がある場合には、該当箇所を二重線で抹消し、その上部等に正しい事項を記入してください。訂正印は不要です。

労働基準監督官A

1. 試験の流れ

申し込みから採用までの日程

	流れ	日程	備考
①	申込み期間	3/18（金）～4/4（月）	2/1 に公告（受験案内配布）インターネット申込
②	1 次試験日	6/5（日）	国税専門官・財務専門官と同日程
③	1 次合格発表	6/28（火）	人事院HP上でも合格番号を掲載
-	業務説明会等	6/29 以降（要予約）	労働局により実施方法・日程が異なる
④	2 次試験日	7/12（火）～7/14（木）	1 次合格通知書で指定された日に面接
⑤	最終合格発表	8/16（火）	人事院HP上でも合格番号を掲載
⑥	採用	4/1	原則として 4 月以降の採用

※受験資格：平成 4 年 4 月 2 日～平成 13 年 4 月 1 日生まれの者（21 歳以上 30 歳未満）

➡労働基準監督官試験は、上記の流れで試験が行われますが、国家一般職のように地域区分ごとの合否が出るものではなく、全国一律で実施されます。第 1 次試験及び第 2 次試験はそれぞれ受験に便利な 1 都市を選んで受験することができます。最終合格後は、都道府県労働局で行われる採用面接を通して採用される仕組みです。採用後は原則として採用された労働局管内の労働基準監督署に配属されます。

なお、2 次試験日に「採用面接登録票」および「志望カード」を提出することで、最終合格後の採用面接を予約する形式となっています。

採用面接について

➡労働基準監督官の採用面接は最終合格発表日（8/16）以降に各労働局で行われますが、受験者は採用を希望する労働局を 1 つだけ選び、「採用面接登録票」に記載した上で 2 次試験日に事前提出することになります。併せて提出する「志望カード」には第 1 志望から第 5 志望まで労働局を記入することができますが、「採用面接登録票」に記載する労働局は、志望カードに記入した第 1 志望労働局と同一であることが前提となっています。

事前の採用面接登録は 1 つの労働局しか行えないので、希望する労働局をよく検討する必要があります。1 次試験合格後に行われる労働局ごとの業務説明会は、複数日程で実施されることやオンライン型の実施もあるため、積極的に参加して第 1 志望を選定していきましょう。

各労働局は「採用面接登録票」を提出した希望者全員に対して採用面接を行い、最終合格発表日の 3 日後（8/19）までに採否（内々定/不採用）の結果を通知することになっています。この時点で内々定が出た

場合は採用面接は終了し、採用を待つだけとなりますが、ここ（8/19）までに内々定を得られていない場合は、内々定を得るまで追加の採用面接を行うことができる仕組みとなっています。第2志望以下の都道府県労働局に対して受験者自身が電話などで採用面接を申し込み、空き状況に応じて採用面接を受けることが可能となっています。また、第2志望以下の労働局から採用面接の勧奨の連絡がくることもあるようです。

2. 試験形式

1 次試験

試験科目	解答題数	解答時間	備考
基礎能力試験（多肢選択式）	40 題	2 時間 20 分	全問必須解答
専門試験（多肢選択式）	40 題	2 時間 20 分	必須：12 題 選択：36 題から 28 題選択
専門試験（記述式）	2 題	2 時間	労働法、労働事情（2 次試験扱い）

基礎能力試験		専門試験（択一）	
現代文	6	労働法（7）	12
英文	5	労働事情（5）	
判断推理	6	小計（2 科目 12 題必須）	12
空間把握	2	憲法（4）	16
数的推理	5	行政法（4）	
資料解釈	3	民法（5）	
小計	27	刑法（3）	
時事	3	経済学（9）	20
物理	1	経済事情（4）	
化学	1	労働経済（3）	
生物	1	社会保障（2）	
日本史	1	社会学（2）	28/36
世界史	1	小計（28 題/出題）	
思想	1	出題数	48
地理	1	解答数	40
法学	3	解答時間	140
経済			
政治			
小計（解答／出題）	13		
出題数	40		
解答数	40		
解答時間	140		

➡基礎能力試験は一般知能分野の出題が 27 問と出題数の 67.5%を占めています。受験案内では数的処理の出題内訳が数的推理 5 問、判断推理 8 問、資料解釈 3 問となっていますが、実際には判断推理の 2 問程度が空間把握となっています。

➡専門択一試験は 12 題必須、36 題中 28 題選択の計 40 題解答制となっています。他の国家専門職試験とは違い、専門択一試験は必須問題以外について、科目選択ではなく、**問題選択制**となっていますのでご注意ください。当日解いてみて、自信のある問題を 1 問 1 問選んで解答できます。

専門試験（記述式）

➡労働法 1 題と、労働事情（就業構造、労働需給、労働時間・賃金、労使関係）1 題が出題されます。試験は 1 次で実施されますが、採点は 2 次試験で行います。

2 次試験**個別面接形式（3：1）**

➡面接官は 3 人で構成されています。当日に持参する面接カードに沿って、15（±5）分程度の面接が行われます。また、2 次試験の際、人物試験の参考とするために質問紙法による性格検査（100 項目の質問に対して「はい」又は「いいえ」により回答：15 分）が行われますが、性格検査については特に対策の必要はありません。また、身体検査として胸部疾患（胸部エックス線撮影）、尿、その他一般内科系（呼吸器・循環器）の検査も行われます。身体検査については配点比率がなく、可否の判定のみを行います。

配点比率・基準点

労働基準監督官 A	試験種目	配点比率	基準点	
第 1 次試験	基礎能力試験	2/7	12	（40 問中 12 問以上の正答が必要）
	専門試験（択一）	3/7	12	（40 問中 12 問以上の正答が必要）
	専門試験（記述）	2/7	60	（200 点満点中 60 点以上の評価が必要）
第 2 次試験	個別面接	—	C	（A～E の 5 段階中 C 以上の評価が必要）

➡1 次試験の可否は「基礎能力試験＋専門試験（択一）」で決定されます。配点比率から考えると、この試験では専門試験の得点がより重要な意味を持つ試験種目といえます。また、全体に占める択一試験の比率が高いことも大きな特徴だといえます。ただし、それぞれにおいて、最低限必要な得点（基準点）が設定されていることに注意が必要です。択一試験では基準点（満点の 30%）に達しない試験種目が一つでも存在する場合、他の試験種目の成績に関わらず不合格となってしまいます。

また、専門試験（記述）は 1 次試験で実施されますが、2 次試験扱いになっています。1 次合格者を対象に評定し、得点化されます。ここでも、基準点（200 点満点中 60 点）に達しない場合は不合格になるので注意が必要です。

➡2 次試験で行われる個別面接では、受験者を A～E の 5 段階で評価しますが、D 及び E 評価になった者は、基準点を満たさない者として不合格になります。また、A～C 評価である者は評価に応じて得点化することではなく、単に面接試験に関しては合格したことになります。つまり、面接試験は可否判定のみを行い、最終合格の得点には含まれないことになります。

➡最終合格者については、専門試験（記述式）において基準点以上であり、かつ、人物試験及び身体検査に合格した者について、基礎能力試験、専門試験（多肢選択式）及び専門試験（記述式）の標準点を合計した得点に基づいて決定します。

採点方法（択一・記述）

$$\text{標準点} = 10 \times \text{配点比率} \times \left(15 \times \frac{\text{素点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50 \right)$$

➡受験者の筆記試験の得点は、各試験種目の素点※ではなく、試験種目ごとに平均点、標準偏差を用いて上記の方法で算出した「標準点」を使っています。上記のカッコ内の式は、いわゆる偏差値になりますので、標準点とは、【10×配点比率×偏差値】ということになります。なお、標準点は小数点以下を切り捨てて表記されます。標準点の合計は概ね 0～1000 点の範囲になり、全ての試験種目で平均的な成績であれば、標準点の合計はおよそ 500 点になります。

素点※：択一式試験の場合は正解数、記述式試験の場合は複数の評価者による評点を総合した値

例) 基礎能力試験で平均点が 20 点、標準偏差が 5.5 点である場合、40 問中 25 問の正答数だと以下のように標準点を算出します。

$$10 \times \frac{2}{7} \times \left(15 \times \frac{25-20}{5.5} + 50 \right) = 181.818181 \dots$$

標準点 = 181

3. 受験状況

倍率（過去 3 年）

労働基準監督官 A		採用予定	1 次試験		1 次合格者数	最終合格者数	受験倍率※		
			申込者数	受験者数			1 次試験	2 次試験	総合
年度	2022	185	2,254	1,216	1,070	319	1.1	3.4	3.8
	2021	195	2,224	1,217	1,050	336	1.2	3.1	3.6
	2020	195	2,699	1,318	1,119	358	1.2	3.1	3.7

※受験倍率（1 次試験）＝（1 次試験受験者数）÷（1 次合格者数）

※受験倍率（2 次試験）＝（1 次合格者数）÷（最終合格者数）

※受験倍率（総合）＝（1 次試験受験者数）÷（最終合格者数）

➡労働基準監督官 A 試験の採用数は安定してはいますが決して多いわけではありません。申込者数は採用予定数の 12 倍程度と比較的人気がある試験といえます。しかし、実際は申込者の 40～50%程度が欠席する傾向があることや、最終合格者数が採用予定数の 1.8 倍前後となることから、実質倍率が 3～4 倍と比較的低い水準で保たれており、受験しやすい状況が続いています。最終合格者数は、例年の辞退者数を考慮したうえで決定されています。

採用実績

労働基準監督官	名簿確定日	名簿記載者数	採用者数※	辞退・無応答者数	採用候補者
2020 年	R2.10.13	476	265	156	65
2019 年	R1.8.20	573	231	315	25
2018 年	H30.8.21	612	273	318	13

※名簿搭載期間は 3 年間であるため、採用者数は過年度名簿からの採用者を含む

➡上表は、労働基準監督官（A 及び B を含む）試験の名簿記載者数及び採用者数を表したものです。表内の「採用候補者」欄はいわゆる名簿残存者（内定先が決まっていない者）になります。2018 年及び 2019 年の「採用候補者」は 3 年間の名簿登載期間を過ぎているため、採用漏れになった人数といえますが、その数は全体の 5%未満となっています。また、2020 年の「採用候補者」は、資料が公表された時点ではまだ採用の可能性がある人数となっています。

労働基準監督官	①採用者数	②採用予定	採用率 (①÷②) × 100
2020 年	265	240	110.4%
2019 年	231	260	88.8%
2018 年	273	280	97.5%
2017 年	193	225	85.8%
2016 年	211	200	105.5%
2015 年	202	200	101.0%
2014 年	239	200	119.5%

➡上表の採用率は、労働基準監督官 A（文系）及び労働基準監督官 B（理工系）の両区分の採用予定に対する採用者数の割合を示したものです。その数値が 100%を下回ると、「定員割れ」していることを示します。2017 年から 2019 年までは定員割れの状況が続いていましたが、2020 年では 100%を越えました。

4. 試験分析

平均点

平均点・標準偏差	2022 年	2021 年	2020 年
基礎能力試験	20.734	24.225	24.430
(標準偏差)	5.179	5.405	5.611
専門択一	22.435	22.541	21.542
(標準偏差)	7.539	7.078	6.832
専門記述	98.189	98.771	95.118
(標準偏差)	24.345	25.071	22.024

➡上表は人事院が公表している平均点・標準偏差について直近 3 年分をまとめたものです。確認すると、基礎能力試験は 2022 年の平均点が前年より 4 点近く下がっていますので、難易度は上がったといえます。ちなみに、基礎能力試験は他の国家専門職試験（国税・財務）と共通問題ですが、2022 年は労働基準監督官試験の平均点が最も低く、財務専門官試験と比較すると約 2 点の開きがありました。専門択一試験と専門記述試験はいずれも平均点に大きな変動はないといえます。択一試験の標準偏差を比較すると、専門試験の方が常に基礎能力試験より大きいことがわかります。標準偏差とは平均値に対する「ばらつきの度合」を示すものです。その数値が大きければ大きいほど、できる人とできない人との点差が開きやすいことになります。そのため、基礎能力試験よりも専門（択一）試験の方が、より点差が開きやすい試験だといえます。

データリサーチ

➡TAC では問題の持ち帰りが可能な主要試験種においてデータリサーチを行っています。本試験を受験した方から寄せられた情報をもとに各試験のボーダーライン予想などを提供しています。他にも参加特典がありますので、積極的に利用してください。

特に TAC で実施している労働基準監督官 A のデータリサーチは、他の予備校と比較しても最大の規模で、実際の受験者数の 10%以上が参加しています。ただ、受験して手ごたえを感じた方の参加率が比較的高いこともあるため、実際の本試験よりも平均点が若干高くなる傾向があります。

基礎能力試験・分野別平均点 ～データリサーチより～

基礎能力試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数	例年の正答率
文章理解	7.4	7.5	7.7	11	70%前後の正答率
数的処理	8.0	9.8	8.5	16	50～60%の正答率
自然科学	1.5	2.0	1.3	3	50～70%の正答率
人文科学	2.2	2.5	2.6	4	55～65%の正答率
社会科学	1.5	2.2	2.0	3	50～70%の正答率
時事	2.1	2.3	1.7	3	55～75%の正答率
合 計	22.5	26.3	23.8	40	55～65%の正答率

➡各分野の実際の平均点はデータリサーチよりも低くなりますので、上記の数値を超えていなくても十分に合格することは可能ですが、学習を進めていく上では一つの目安にすることができると良いでしょう。ご自身の得意不得意などを加味した上で、分野別に自分なりの目標値を設けて学習を進めていきましょう。

専門試験・科目別平均点 ～データリサーチより～

専門試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数
労働法	4.8	4.8	5.4	7
労働事情	3.3	2.8	2.8	5
憲法	2.0	3.2	3.1	4
行政法	3.1	2.6	3.2	4
民法	3.4	3.2	2.2	5
刑法	1.9	2.5	1.6	3
経済学	5.8	6.0	5.2	9
経済事情	2.3	2.2	2.2	4
労働経済学	2.1	1.9	1.6	3
社会保障	1.1	1.5	1.1	2
社会学	1.7	1.5	1.3	2
合 計	26.0	25.6	25.8	48

➡左表の網掛け部分は平均点が6割以上となっている科目を示しています。必須解答である労働法と労働事情を除くと、科目ではなく問題ごとの選択になっていますので、科目単位の平均点は一応の目安程度に確認してください。問題ごとの選択率及び正答率は「出題傾向・正答率（p.52）」に掲載していますので詳しくはそちらでご確認ください。

ボーダーライン

（合格点：標準点）

労基 A	1 次合格	最終合格	標準点差
2022	220	389	169
2021	244	375	131
2020	245	390	145

➡上表は人事院が公表した1次合格および最終合格のために最低限必要な標準点を表しています。2022年は例年よりも最終合格点が低くなり、1次合格と最終合格の標準点差も例年より拡大（169点）しました。これは、専門記述の平均点（素点100点付近）で基準点が146点であるため、1次の得点がボーダー付近であった場合、専門記述の得点は平均点を上回る必要があることを意味します。2次試験の倍率が高い試験であることも考えると、最終合格するためには択一試験で余裕をもった点数を獲得する必要があるといえます。択一試験の得点がギリギリである場合、専門記述の得点によっては最終合格を逃してしまうことになりますので注意が必要です。

(専門記述・面接：標準点)

面接	A	B	C	D	E
2022	—	—	—	不 合 格	
2021	—	—	—		
2020	—	—	—		

記述	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120	125	130
2022	75	84	93	102	110	119	128	137	146	154	163	172	181	190	198
2021	65	75	85	95	105	115	125	135	145	155	165	175	185	195	205
2020	74	84	93	103	113	123	132	142	152	161	171	181	191	200	210

記述	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180	185	190	195	200
2022	207	216	225	234	242	251	260	269	278	286	295	304	313	322
2021	215	225	235	245	255	265	275	285	295	305	315	325	335	345
2020	220	230	239	249	259	268	278	288	298	307	317	327	337	346

➡上表は、人事院が公表したデータをもとに算出した専門記述の標準点です。1次で獲得した択一試験の標準点に、上記の専門記述で獲得した標準点を加えた総合得点が、最終合格に必要な標準点を上回る必要があります。2021年で確認すると、1次試験が合格最低点（244点）であった場合、専門記述試験で131点以上必要となりますので、専門記述は平均点付近にあたる素点95点以上が必要で、逆に専門記述試験が基準点付近であると、択一試験だけで310点（標準点）が必要になります。これは最低でも素点で41点（基礎12+専門29）以上の得点が必要であることを意味します。

【補足】専門記述試験の採点方法

➡労働基準監督官Aの記述試験は、各問題を200点満点として採点し、その合計を2で割った値を素点としています。素点の10点未満の端数は5点を5点、5点未満を0点としますので、上記のように60～200までの5点刻みの数値となります（60未満は不合格）。この素点はさらに、平均点や標準偏差、配点比率をもとに標準点化されます。

➡下表は2022年の労働基準監督官A試験において、合格に必要な得点についてまとめています。専門試験の得点を縦軸に、基礎能力試験の得点を横軸にとり、その合流点が択一試験の合計得点（標準点）となります。表内の網掛け（灰色）になっている部分が1次試験に合格できる範囲となります。また、昨年との比較についてもまとめていますので参考にしてください。

2022 労働基準監督官A																																					
40	364																																				
39	355	425	433	442	450	458	466	475	483	491	500	508	516	524	533	541	549	557	566	574	582	591	599	607	615	624	632	640	649	657							
38	347	417	425	434	442	450	458	467	475	483	492	500	508	516	525	533	541	549	558	566	574	583	591	599	607	616	624	632	641	649							
37	338	408	416	425	433	441	449	458	466	474	483	491	499	507	516	524	532	540	549	557	565	574	582	590	598	607	615	623	632	640							
36	329	399	407	416	424	432	440	449	457	465	474	482	490	498	507	515	523	531	540	548	556	565	573	581	589	598	606	614	623	631							
35	321	391	399	408	416	424	432	441	449	457	466	474	482	490	499	507	515	523	532	540	548	557	565	573	581	590	598	606	615	623							
34	312	382	390	399	407	415	423	432	440	448	457	465	473	481	490	498	506	514	523	531	539	548	556	564	572	581	589	597	606	614							
33	304	374	382	391	399	407	415	424	432	440	449	457	465	473	482	490	498	506	515	523	531	540	548	556	564	573	581	589	598	606							
32	295	365	373	382	390	398	406	415	423	431	440	448	456	464	473	481	489	497	506	514	522	531	539	547	555	564	572	580	589	597							
31	287	357	365	374	382	390	398	407	415	423	432	440	448	456	465	473	481	489	498	506	514	523	531	539	547	556	564	572	581	589							
30	278	348	356	365	373	381	389	398	406	414	423	431	439	447	456	464	472	480	489	497	505	514	522	530	538	547	555	563	572	580							
29	270	340	348	357	365	373	381	390	398	406	415	423	431	439	448	456	464	472	481	489	497	506	514	522	530	539	547	555	564	572							
28	261	331	339	348	356	364	372	381	389	397	406	414	422	430	439	447	455	463	472	480	488	497	505	513	521	530	538	546	555	563							
27	253	323	331	340	348	356	364	373	381	389	398	406	414	422	431	439	447	455	464	472	480	489	497	505	513	522	530	538	547	555							
26	244	314	322	331	339	347	355	364	372	380	389	397	405	413	422	430	438	446	455	463	471	480	488	496	504	513	521	529	538	546							
25	236	306	314	323	331	339	347	356	364	372	381	389	397	405	414	422	430	438	447	455	463	472	480	488	496	505	513	521	530	538							
24	227	297	305	314	322	330	338	347	355	363	372	380	388	396	405	413	421	429	438	446	454	463	471	479	487	496	504	512	521	529							
23	219	289	297	306	314	322	330	339	347	355	364	372	380	388	397	405	413	421	430	438	446	455	463	471	479	488	496	504	513	521							
22	210	280	288	297	305	313	321	330	338	346	355	363	371	379	388	396	404	412	421	429	437	446	454	462	470	479	487	495	504	512							
21	202	272	280	289	297	305	313	322	330	338	347	355	363	371	380	388	396	404	413	421	429	438	446	454	462	471	479	487	496	504							
20	193	263	271	280	288	296	304	313	321	329	338	346	354	362	371	379	387	395	404	412	420	429	437	445	453	462	470	478	487	495							
19	184	254	262	271	279	287	295	304	312	320	329	337	345	353	362	370	378	386	395	403	411	420	428	436	444	453	461	469	478	486							
18	176	246	254	263	271	279	287	296	304	312	321	329	337	345	354	362	370	378	387	395	403	412	420	428	436	445	453	461	470	478							
17	167	237	245	254	262	270	278	287	295	303	312	320	328	336	345	353	361	369	378	386	394	403	411	419	427	436	444	452	461	469							
16	159	229	237	246	254	262	270	279	287	295	304	312	320	328	337	345	353	361	370	378	386	395	403	411	419	428	436	444	453	461							
15	150	220	228	237	245	253	261	270	278	286	295	303	311	319	328	336	344	352	361	369	377	386	394	402	410	419	427	435	444	452							
14	142	212	220	229	237	245	253	262	270	278	287	295	303	311	320	328	336	344	353	361	369	378	386	394	402	411	419	427	436	444							
13	133	203	211	220	228	236	244	253	261	269	278	286	294	302	311	319	327	335	344	352	360	369	377	385	393	402	410	418	427	435							
12	125	195	203	212	220	228	236	245	253	261	270	278	286	294	303	311	319	327	336	344	352	361	369	377	385	394	402	410	419	427							
専門	標準点	70	78	87	95	103	111	120	128	136	145	153	161	169	178	186	194	202	211	219	227	236	244	252	260	269	277	285	294	302							
素点	基礎	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40							

1次試験合格点（標準点）	220	1次合格最低点（素点）	27
最終合格点（標準点）	389	1次不合格最高点（素点）	26

専記	素点	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180	185	190	195	200
標準点		75	84	93	102	110	119	128	137	146	154	163	172	181	190	198	207	216	225	234	242	251	260	269	278	286	295	304	313	322

2021年に比べ1次合格点（標準点）が24点下がり、最終合格点（標準点）が14点上がっている。素点ベースで確認すると、2021年は基礎12+専門21=33点（41.25%）が1次合格の最低点であったが、2022年では基礎12+専門15=27点（33.75%）となっている。そのため、1次試験のボーダーラインは6点程度下がったといえる。また、最終合格点と1次合格点との差が169点と、昨年より拡大したため、1次がボーダー付近の場合、面接でC評価以上で、専門記述の評価が200点満点中115点以上であれば最終合格できたことになる。

出題傾向・正答率

2022 年

基礎能力試験

専門試験

No	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		選択率	出題テーマ	
1	現文	73	内容合致	1	労働法	63	—	労働時間や休日等	
2		89	内容合致	2		74	—	賃金	
3		93	内容合致	3		68	—	労働契約，労働者派遣契約等	
4		89	内容合致	4		90	—	育児・介護休業法	
5		82	空欄補充	5		79	—	労働安全衛生法	
6		84	文章整序	6		75	—	労災保険制度	
7	英文	61	内容合致	7	労働事情	37	—	労使紛争の解決手続	
8		41	内容合致	8		60	—	我が国の就業	
9		78	内容合致	9		85	—	我が国の雇用失業情勢	
10		46	文章整序	10		70	—	我が国の労働時間等	
11		61	空欄補充	11		73	—	我が国の賃金等	
12	判断	41	集合	12		51	—	我が国の労働組合・労使関係等	
13	数的	47	場合の数	13	憲法	26	96	法の下の平等	
14	判断	78	位置・座席	14		63	97	表現の自由	
15		27	対応	15		76	97	国会	
16		34	順序	16		37	90	内閣	
17		44	操作手順	17	82	96	行政立法		
18	空間	83	平面図形	18	行政法	85	91	行政不服審査法	
19		56	軌跡	19		74	95	原告適格	
20	数的	54	期待値	20		民法	80	94	損失補償
21		44	割合	21			61	90	法律行為
22		50	剰余	22	78		95	不動産物権変動	
23		60	規則性	23	65		90	譲渡担保	
24	判断	39	方程式	24		68	91	債権者代位権	
25	資料	72	複数の資料	25	刑法	77	91	不法行為	
26		56	対前月増加量	26		60	61	因果関係	
27		63	様々な資料	27		78	62	未遂	
28	時事	87	我が国の医療と健康	28		52	55	偽造罪	
29		70	近年の世界の動向	29	84	81	効用最大化(計算)		
30		59	近年我が国における法改正	30	87	84	操業停止点(条件)		
31	自然	29	波動	31	経済学	67	63	独占均衡とラーナーの独占度(計算)	
32		60	天然高分子化合物	32		36	68	最適労働供給(課税の効果)	
33		67	細胞の構造	33		78	71	GDP ギャップ(計算)	
34		46	我が国の文化	34		90	56	自然失業率仮説(計算)	
35	人文	64	18～19 世紀フランス	35		25	50	マネーストック統計	
36		59	ヨーロッパの思想	36		40	15	新古典派投資理論	
37		80	世界の農業	37		87	81	負の所得税	
38	社会	52	自由権総合	38		経済事情	49	67	日本経済史
39		79	我が国の司法制度	39	67		68	日本経済事情	
40		38	冷戦終結後の国際社会	40	57		70	世界経済事情	
～データリサーチより～				41	73		64	世界経済事情	
				42	労働経済	70	73	期待効用仮説	
				43		73	57	人的資本論	
				44		72	84	我が国の労働経済の状況	
				45		社会保障	56	80	我が国の社会保障をめぐる状況
				46	58		83	我が国の子ども・子育ての状況	
				47	社会学	85	53	シカゴ学派	
				48		84	56	逸脱理論	
平均点 基礎能力試験 22.5 専門試験 (択一) 26.0									

※ 選択率及び正答率(%)は小数点第 1 位を四捨五入しています。

※ 選択率及び正答率 60%以上は網掛けで示しています。

2021 年

基礎能力試験

専門試験

No	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		選択率	出題テーマ
1	現文	93	内容合致	1	労働法	40	—	労働基準法
2		76	内容合致	2		74	—	労働時間や年次有給休暇
3		82	内容合致	3		84	—	解雇
4		90	内容合致	4		54	—	労働者派遣
5		71	空欄補充	5		83	—	労働安全衛生法
6		82	文章整序	6		85	—	労災保険
7	英文	70	内容合致	7	労働事情	67	—	労働審判手続
8		39	内容合致	8		65	—	我が国の就業
9		66	内容合致	9		55	—	我が国の雇用失業情勢
10		72	文章整序	10		51	—	我が国の労働時間等
11	29	空欄補充	11	49	—	我が国の賃金等		
12	判断	50	集合	12	58	—	我が国の労働組合・労使関係等	
13		50	円卓	13	89	94	幸福追求権	
14		78	時間割	14	56	92	社会権	
15		88	順序	15	85	94	国会	
16		70	対応	16	92	94	地方自治	
17		81	トーナメント	17	行政法	33	92	行政指導
18	空間	56	平面ジグソー	18		63	92	行政計画
19		29	正多面体	19		82	92	訴えの利益
20	数的	51	確率	20	87	92	国家賠償法	
21		70	濃度	21	72	93	意思表示	
22		61	整数	22	58	91	留置権	
23		61	図形の計量	23	79	92	許害行為取消権	
24		62	平均	24	61	91	賃貸借	
25	資料	86	実数と割合(グラフ)	25	61	90	相続	
26		74	実数(表)	26	87	60	共犯	
27		76	複数の表・グラフ	27	84	58	人格的法益に対する罪	
28	時事	73	我が国の生物をめぐる動向	28	77	57	公務の執行に対する罪	
29		85	2020年のCOVID-19の動向	29	82	68	効用最大化(計算)	
30		62	近年の経済・金融等	30	76	61	クールノー・モデル(計算)	
31	自然	63	消費電力	31	75	42	2期間モデル(計算)	
32		64	酸化還元	32	44	35	労働分配率(計算)	
33		74	免疫	33	46	72	補助金の余剰分析(計算)	
34	人文	88	我が国と中国王朝の関係	34	87	73	総需要関数(計算)	
35		51	中世ヨーロッパ	35	38	26	貨幣数量説(計算)	
36		46	世界の気候と森林	36	79	33	総供給関数(計算)	
37		56	我が国の仏教思想家	37	82	62	成長会計方程式(計算)	
38	社会	93	内閣	38	66	78	日本経済事情	
39		86	IS-LM分析	39	40	57	日本経済事情	
40		68	国際連合	40	60	73	世界経済事情	
～データリサーチより～				41	51	63	世界経済事情	
平均点					42	54	67	後方屈折型労働供給曲線(文章)
					43	80	42	教育の収益率(文章)
					44	55	87	我が国の労働経済の状況
					45	93	85	我が国の社会法相制度
					46	59	76	我が国の社会福祉
					47	81	65	R.K.マートン
					48	71	81	M.フーコーの権力論
基礎能力試験 26.3								
専門試験(択一) 25.6								

※ 選択率及び正答率(%)は小数点第1位を四捨五入しています。

※ 選択率及び正答率 60 以上は網掛けで示しています。

2020 年

基礎能力試験

専門試験

No	正答率()		出題テーマ	No.	正答率()		選択率	出題テーマ	
1	現文	86	内容合致	1	労働法	89	—	労働基準法	
2		75	内容合致	2		60	—	労働時間や休憩	
3		94	内容合致	3		92	—	賃金	
4		84	内容合致	4		57	—	障害者雇用	
5		53	文章整序	5		78	—	労働安全衛生法	
6		75	空欄補充	6		71	—	労災保険	
7	英文	74	内容合致	7	労働事情	89	—	労働組合	
8		75	内容合致	8		56	—	我が国の就業	
9		73	内容合致	9		45	—	我が国の雇用失業情勢	
10		77	文章整序	10		58	—	我が国の労働時間等	
11		43	空欄補充	11		58	—	我が国の賃金等	
12		判断	66	命題		12	憲法	65	—
13	67		位置関係	13	69	95		人権の享有主体性	
14	86		順序(順位変動)	14	95	97		思想及び良心の自由	
15	75		順序(任期)	15	63	96		内閣	
16	60		対応	16	87	97		地方自治	
17			59	位置関係	17	行政法		90	92
18	空間	45	軌跡	18	70		95	行政手続法上の申請に対する処分	
19		46	多面体	19	71		92	行政事件訴訟法上の執行停止	
20	数的	78	方程式	20	民法		93	97	国家賠償
21		56	図形の計量	21			84	95	時効
22		53	割合	22			62	92	即時取得
23		78	確率	23		62	92	債権譲渡	
24		48	規則性	24		76	92	請負	
25		資料	67	複数のグラフ		25	刑法	24	86
26	63		複数の表	26	79	65		故意・過失	
27	64		複数のグラフ・表	27	49	49		罪数・刑罰	
28	時事	43	我が国の交通等	28		28	63	窃盗罪・詐欺罪	
29		68	文化財	29		64	85	消費者理論総合問題(組合せ)	
30		61	最近の国際情勢	30		55	59	操業停止価格(範囲指定)	
31	自然	19	速度の分解	31	経済学	44	42	期待効用仮説(計算)	
32		59	状態変化	32		65	64	二重価格制度(図解)	
33		72	植物の環境応答	33		4	55	混合戦略ナッシュ均衡(計算)	
34	人文	59	我が国における一揆	34		62	78	国民経済計算(計算)	
35		73	第二次世界大戦後の冷戦	35		58	65	閉鎖経済下 45 度線分析(計算)	
36		78	ケッペンの気候区分	36		81	68	2 期間モデル(計算)	
37		63	わが国の思想家	37	87	69	貨幣乗数(計算)		
38		社会	63	法の支配や人権	38	44	72	我が国の経済事情	
39			74	物価関連	39	73	71	我が国の財政・金融動向	
40	81		情報化社会	40	34	57	各国の経済成長率(組合せ)		
～データリサーチより～				41		64	51	中国とインドの経済情勢	
平均点	基礎能力試験 23.8 専門試験 (択一) 25.8			42	労働経済	31	42	労働市場における買い手独占	
				43		57	65	人的資本理論	
				44		73	86	労働経済白書	
				45		90	90	我が国の社会保障制度	
				46	社会保障	25	87	我が国の福祉等を取り巻く状況	
				47		47	47	現代社会の理論	
				48		85	68	クーリーの「鏡に映った自我	

※ 選択率及び正答率(%)は小数点第 1 位を四捨五入しています。

※ 選択率及び正答率 60 以上は網掛けで示しています。

5. 情報収集

■ 人事院・厚生労働省ホームページ

<https://www.jinji.go.jp>

<https://www.mhlw.go.jp/general/saiyo/kantokukan.html>

➡試験情報から各種イベントまで様々な情報を収集することができます。ホームページを定期的にチェックしておきましょう。

■ T A C公務員講座主催 官公庁・自治体講演会

https://www.tac-school.co.jp/kouza_komuin/komuin_setumeikai.html

➡採用試験制度の仕組み、職員の業務内容、若手職員に期待すること、入庁後のキャリアプランなど、採用試験のご担当者から直接ご説明いただきます（普段着で出席できます）。例年、秋以降から実施していきます、詳細は TAC WEB SCHOOL で案内が出ますのでご確認ください。

■ 復元シート（各校舎・TAC WEB SCHOOL で資料閲覧）

➡過年度の筆記試験や人物試験などの復元シートが閲覧できます。校舎で閲覧する場合は受付で会員証を提示の上で申し出てください。TAC WEB SCHOOL で閲覧する場合は「学習フォロー」の中の「デジタル教材」をクリックして確認してください。

■ 直前期オプション講座（有料）「労働基準監督官 A 対策セミナー」

➡労働基準監督官 A で出題される択一試験「労働法」「労働事情」、専門記述試験の対策を行います。専門記述試験対策として、添削課題&答案添削がついています。労働基準監督官 A が第一志望の方におすすめのセミナーです。

6. 参考資料（面接カード）

面接カード（専門職大卒） 2022

事前に記入して人物試験当日に持参してください。

・ボールペン（自筆）で記入してコピーを2部取り，原本と併せて3部を人物試験当日に持参してください。（様式を変更しないでください。該当する□には✓を付けてください。）

・出身校や会社名などが特定されるような記入は避けてください。

※このカードは，人物試験の際に質問の参考資料として使用するものであり，記入内容が直接評価に影響することはありません。

試験の区分	第1次試験地	受験番号	ふりがな 氏 名
[最終学歴] ☐ 大学 ☐ 大学院 (課程) ☐ その他 ()			[職 歴] ☐ ある ☐ ない (主な職種)
☐ 修了・卒業 (年 月) ☐ 在学 (年 月 修・卒見) ☐ 中退 (年 月)			

[志望動機・受験動機]

[専攻分野・得意分野] 学業や職務経験を通じたもの（あれば，専攻演習，卒業・修士論文のテーマ等）

[最近関心や興味を持った事柄] 社会生活，時事問題，社会情勢など

[印象深かったこれまでの体験] 学校生活や職務，ボランティア活動，アルバイトなどの体験を通じて

[自己PR] 長所や人柄について

[趣味，特技など]